

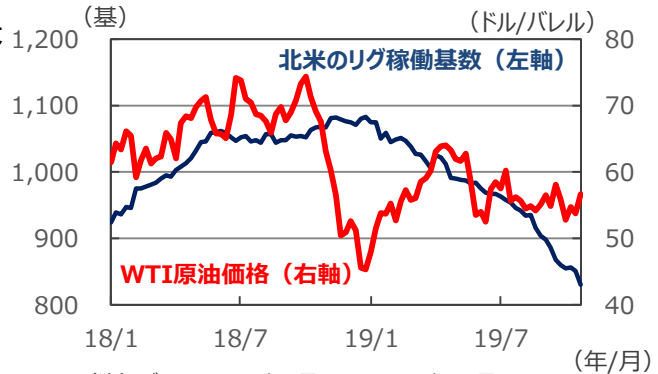


今日のトピック 横ばい圏で推移する原油価格（2019年10月）
景気減速懸念と協調減産への思惑の綱引きに

ポイント1 原油価格は横ばい圏で推移
景気減速と減産拡大への思惑が背景

- 北米の代表的な原油価格であるWTIは、10月は月を通じて概ね横ばい圏で推移しています。
- 米中協議への懸念などから軟調に推移した後、月後半は、主要産油国が12月開催予定の石油輸出国機構（OPEC）総会で協調減産の拡大を検討するとの報道を背景に上昇しました。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは2018年1月5日～2019年10月25日。ともに週次データ。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 OPEC産油量は減少
需給は引き締めを見込む

- 10月10日に公表されたOPEC月報の10月号によると、OPEC加盟国の原油生産量は減少傾向にあります。9月の生産量は日量で前月比▲132万バレルとなる2,849万バレルでした。
- サウジアラビア（サウジ）の石油施設に対する攻撃の影響が出ていると見られます。ただしこの影響は一時的で、10月には供給が多少は戻ると見られます。
- 2019年の世界の原油需要は日量9,980万バレルと予想されており、需給の均衡にはOPEC加盟国で3,073万バレルの供給が必要と見られます。サウジの生産が回復し、OPECの原油生産量が8月の2,981万バレル程度で推移するとすれば、2019年は需要が供給をやや上回りそうです。

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
世界需要	98.8	99.8	100.9
供給	99.1	99.8	100.9
非OPEC	67.2	69.1	71.3
OPEC	31.9	30.7	29.6
需給バランス	0.2	0.0	0.0

(注1) 需給バランス=供給-需要。

(注2) 単位は百万バレル（日量）。

(注3) 2018年は実績。2019年、2020年はOPECによる予想。ただし、2019年と2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。

(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。

(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 景気減速懸念と協調減産拡大
に対する思惑に左右される展開か

- 米中協議は部分合意に至り、先行き不透明感が残るものの一旦落ち着きを見せていますが、世界的な景気減速懸念が需要見通しの重石となっています。一方で、12月のOPEC総会では、OPECと非加盟産油国で構成するOPECプラスで協調減産の拡大が検討される見通しとなっており、原油価格を下支えしています。
- 当面、原油価格は経済指標と協調減産拡大への思惑に左右される展開が見込まれます。加えて、イランと米国の対立など中東情勢も注視する必要があります。

ここもチェック! 2019年10月18日 中国経済は減速が続く（2019年10月）
2019年10月16日 IMFの世界経済見通しは2019年が底

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。